

W030 中央構造線の断層谷(静岡県GEO
DATA(25)特集：地学散歩(104))

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-01-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 楠, 賢司, 三須, 寛希 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00029296

W030 中央構造線の断層谷



国土地理院 地理院地図 (電子国土Web)

中央構造線は、関東地方から九州地方まで続く総延長 1,000 km 以上に達する日本最大の断層である。この長大な断層は、1885 年にナウマン象の名前の由来となったドイツの地質学者エドムント・ナウマンによって発見された。中央構造線は、日本列島がアジア大陸の一部であった白亜紀中期 (約 1 億年前) に形成された。

県内では中央構造線は、浜松市天竜区北端の青崩峠から水窪を通り、佐久間を経て浦川に抜ける。写真は、佐久間にある二本杉峠付近の県道 290 号線から南西方向を望んだ景色である。ここからは、中央構造線の活動によって形成された断層谷 (写真中央の赤色点線) を観察できる。中央構造線は西南日本の地質構造を外帯と内帯に二分している。ここから望む景色で言うと、断層谷の東側 (写真中央の赤色点線の左側) の山々が外帯 (三波川帯)、谷の西側 (写真中央の赤色点線の右側) の山々が内帯 (領家帯) である。

(楠 賢司・三須寛希)